

埼玉県越谷市教育学部、人間科学部、文学部と神奈川県茅ヶ崎市（情報学部）、国際学部、健康栄養学部、経営学部）に緑豊かな2つのキャンパスを擁する文教大学は学びの環境が整った私立総合大学です。

なかでも教育学部は私立大学初の教員養成を目的として開設し、全国から教員を目指す学生が集い熱心に学んでいます。例年70%前後の卒業生が教員に就職し、今年で12年連続小学校教員採用者数私立大学1位を達成。中学校教員採用者数でも6年連続私立大学1位（2年連続全国1位）に輝き、全国に1万名を超える教員のネットワークが広がります。



出井雅彦教育学部長

小・中教員採用者数私大1位の実績 次の50年を見据えた改革で さらなる高度教育人材を育成

日本の私立大学で初の 教員養成のための学部

文教大学教育学部は、1969年に開設された日本の私立大学初の教員養成のための学部で、今年50周年を迎えました。建学の精神「人間愛」に基づき、豊かな人間性を育む教育を重視。専門性を身につけた指導者として、教育力のみならず、他者を尊重し思いやる人間力を兼ね備えた教員の養成に力を注いでいます。県内からの学生が中心となる国立大学の教育学部に比べ、文教大学には各地から学生が集まり、卒業生の多くは故郷に戻って教員となっているため、全国隅々までそのネットワークが広がっています。

文教大学は、卒業生の教員就職率（卒業生数に対する教員採用者数の割合）が非常に高いことで知られています。正規採用と臨時採用を含めた教員就職率は、国立大学の教員養成課程の平均が60%前後で推移しているのに対し、文教大学教育学部は70%前後で推移しています。

こうした高い教員就職率を支えているのが、担任制を採用したきめ細かな少人数教育と、充実した教員就職支援体制です。教員採用試験合格

のノウハウを伝える教員就職ガイダンスや学内講座、教授合宿セミナーなど、多彩なプログラムを整備。これらは教育学部の学生のみなならず、他学部の学生も受講できます。

また、さまざまな場面で数多くの卒業生が来校し、現場の課題や体験を聞く機会があるのも文教大学の利点です。

「中高をつなぐ教育実現のため 『発達教育課程』を新設

「教育学部は50周年を機に時代の要請を踏まえて、この先の50年を考えた改革に着手しました」と話す出井雅彦教育学部長。「特に小1プロブレムに代表されるような学校間接続問題や多様な個性をもった子ども達への対応など、子どもの発達の多様性と連続性を理解した教員養成が強く求められており、『発達教育課程』の新設に踏み切りました」

これまで教育学部には、小学校と中学校の教員養成を中核とした「学校教育課程」と、乳幼児期から青年期にいたる「心の教育」を担う教員・保育士を養成する「心理教育課程」がありました。2020年4月からは「心理教育課程」を改組して、新たに「発達教育課程」を設置し、「学校教育課程」との2課程体制に移行します。

「発達教育課程」には従来の心理教育課程にあった「児童心理教育専修」と「幼児心理教育専修」に加え、幼稚園と小学校のつなぎを重視した

能です。

「幼児心理教育専修」では、幼児期から児童期への発達を連続的に捉え、幼児教育・保育の分野の双方を学びます。また、保護者支援のためカウンセリング能力も身につけた子育て支援の専門家を養成し、幼稚園教諭1種免許状と保育士資格が取得可能です。

発達教育課程では、専修の枠を超え、専修以外の科目を選択・自由科目として履修することで、専門の幅をさらに広げることができま

学校教育課程も カリキュラム改訂

一方、「学校教育課程」は、科目ごとに分かれた9つの専修で構成されます。例えば、2016年に設置された「英語専修」では、小学校の英語必修化もあり、英語に強い小学校教員が求められるなか、小学校・中・高英語教員の養成に特化。本場の英語指導法を学ぶ英国ウォリック大学での英語指導者養成プログラムでは、3週間様々な体験を通して英語力に磨きをかけます。

大半の学生が小・中学校だけでなく、高校の教員免許まで取得する学校教育課程では、小・中・高の一貫性を意識しながら教育に携わる教員を育てています。また、教科ごとの専修の垣根を越えて、他専修の学生と一緒に学ぶことができるため、教科横断的な視野も養うことができます。特に、小学校教員になるためには全教科を学ぶことになるので、

これは大きな魅力です。

2020年から学校教育課程においてもカリキュラム改訂を予定しています。3年次以降に選択の枠を設け、小学校教員を目指す者、中・高教員を目指す者、それぞれにふさわしい学びを自ら選び、目的意識をもって学修できるようにします。

教育現場を体験しながら スパイラルに成長する

1年次から正課内・正課外を含め、多様な学校現場体験を積みながら学びを深めていけることも文教大学教育学部の大きな特徴の一つです。さまざまな教育機関との連携により、教育実習に加え、学校現場を体験できる多彩なプログラムがあります。

2年次に行う「先生の助手体験プログラム」では、越谷市内の小中学校で7日間先生を手伝いながら「先生の仕事」と「学校という職場」を理解します。毎年約8割の学生が参加し、やりがいや大変さを体験。教員としての職業観・使命感を培います。

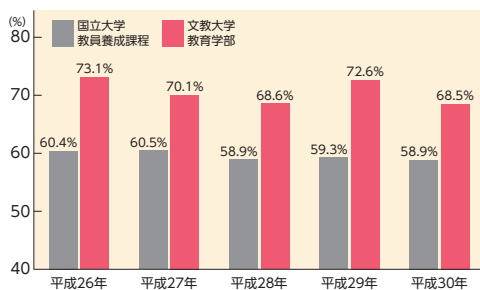
約30年の歴史を誇る「アメリカ学校教育研修」は、アメリカ・メリランド州に2週間ホームステイし、現地の小・中学校で日本文化を英語で紹介する授業を行うとともに、現地の大学生との交流を

通じてアメリカの教育制度を学び、日本の学校・教育文化の良さと課題を再発見します。

3年生以降は幼稚園や保育園、児童福祉施設、小・中・高校など、専攻に応じた教育実習を体験していきます。このほか、小学校などで授業のサポートを行う「学生ボランティア補助教員制度」など、さまざまなボランティア活動を展開しており、大学がその窓口となり、保険にも加入するなど支援をしています。

「正課、正課外を含めたさまざまな学校現場と大学との往還を繰り返しながら、学生たちが自分の目指す方向に向かってスパイラルに成長できる仕組みを作っています」と出井教育学部長。続けて、「私立の受験科目は少ないですが、将来教員になることを目指して入学される皆さんには、ぜひ高校時代にその基礎となる基本的な知識を幅広く学んで来てほしいですね。また、いろいろな人と交わり対話力をつけて来てほしい。そしてそれを大学でさらに伸ばしていくてもらいたいと思います」と受験生にメッセージを送っています。

国立大学を上回る教員就職率



文教大学では、教育学部はもちろん、他の学部でも多くの学生が就職を目指して勉学に励んでいます。そうした学生のニーズに応えるため、越谷・湘南の両キャンパスで多彩な教員採用支援プログラムを実施。大きな成果を挙げています。

注1. 教員就職率とは、正規採用と臨時採用の合計値を卒業生数で割った数字です。
注2. 文教大学教育学部のデータは、各年3月卒業生のデータを5月1日付でまとめたものです。なお、本誌作成にあたり、文教大学教育学部のデータは幼稚園教員就職率を含み計算しました。
注3. 国立大学の教員養成課程の教員就職率は文部科学省ホームページによります。
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku/1413296.htm

(1) 教授合宿ゼミ

「教授」は教員採用試験の略。毎年3月に2泊3日で面接試験、模擬授業、集団討論などの教員採用試験対策を実施。教員採用試験の合格を目指すとともに、社会性・協調性・コミュニケーション能力を磨き、教員としての実践的指導力を養うことも目的としている。

教員採用試験は、自治体によって試験内容が異なるため、可能な限り受験自治体別のグループに分かれて実施している。また、この合宿に参加できなかった人のために、同じ内容の集中セミナーも実施している。



(2) 特別支援教育専修

障がいのある子どもが通う特別支援学校や特別支援学級の教員を養成する専修。特別支援教育の手法や支援制度等を学習し、状況に応じた指導方法を身につける（「知覚障害者」「肢体不自由者」「病弱者」の領域）。

(3) 認定心理士

心理学の基礎的知識を身につけていることを認定する資格。心理学に関する履修科目5領域中の3領域にわたって必要な単位を満たすことによって、社団法人日本心理学会から認定され、認定心理士の資格が取得できる。

